



地元青少年との交流会(蔚山文化放送スタジオ)



しかったです。
 ぼくは、三隅町の人々のおかげで、日本に一番近い外国「韓国」に行つて、貴重な体験をすることができました。この体験をもとに、これからはがんばつていきたいと思つています。どうもありがとうございました。

「少年の船に参加して」

三隅中3年 黒瀬亜紀

私は、今回日韓友好TYS少年の船に参加しても良い体験をし、又貴重な思い出を作ることができとてもうれしく思っています。言葉は通じなくても、心と心で何か感じるものを発見し、韓国の人たちとも交流を深めることができました。

六日間は長いように感じましたが、あつという間に過ぎてしまいました。この六日間、一緒に助け合い、はげましあつた仲間とわかるのはつらかつたけど、この思い出は消えることはありません。

「少年の船を通じて」

三隅中3年 岡本 諭

少年の船を通じて、二つの大きなものを手に入れることができた。その内の一つは「友達」である。フェリーの中や買い物、そしてホテルの中など多くのふれ合いの場があり、ふれ合えた、そんないろいろなふれ合いが、思い出とかわつていった。もう一つとは、フェリーの中、交流会、ロッテワールドとたくさん思い出ができた。それだけのことがすべて思い出として残ることがよかつた。「少年の船」を通じていろいろなことを学べてよかつた。

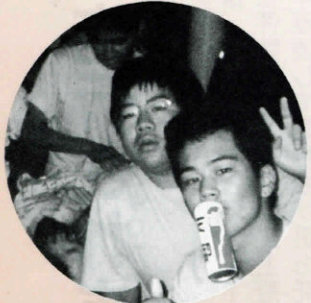


「韓国の訪問を通して」

三隅中3年 中村佳允

僕は今回の韓国訪問にあつて、言葉が違うことと、他の学校の人と友達になれるかが心配でした。

そんな不安を胸に、フェリーへ乗り込みました。しかし、不安はすぐに消えました。友達もでき、一緒に遊んだり話したりできる仲間ができました。あとは交流会だけです。韓国の子どもたちは、すごく積極的でした。僕もある女の子に英語で話しかけられ、とまどいながらも英語で話すことができました。こうした経験をしたことで、一回り大きく成長できた気がします。



「最高の感動」

三隅中3年 山本裕之

楽しかったことは多いが、感動したことは、以外にも少ない。一つ取り上げるとすれば、やはり別れの時だろうか。

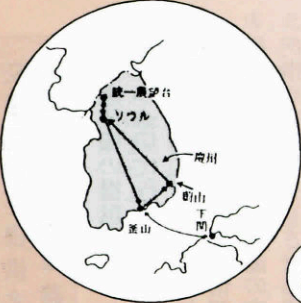
最終日に行われた解散式の後、友達同士で握手を交わし、別れを告げた。その時だろうか、悲しさが津波のように、おし寄せてきたのだ。表面的には涙を流さなかつたものの、目の奥の方に熱いものを感じたのは確かだ。手をふつて去っていく友達胸の方にも、グツと来た。この時のことは絶対忘れまい。そう思った。



「友達」

三隅中3年 宇野早苗

最初、この研修に参加しようと思つたきっかけは、「楽しそうだな」ということだけでした。だけど、行つてみると、何もかもが本当にいい経験でした。そして、何より私が一番思い出に残つたことは、今まで以上に、たくさん友達ができたとです。友達と離れた今は、文通をしたり、電話をしたりとても楽しい毎日になりました。これからは友達を大切にしようと思つています。



日韓友好

TYS 少年の船